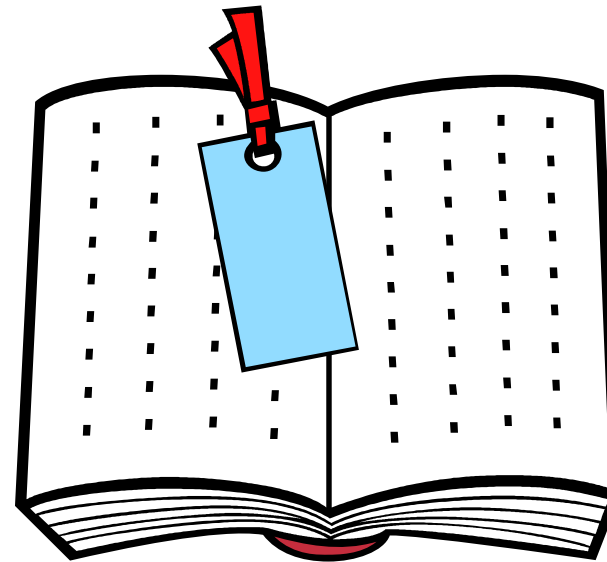


平成21年度  
全国学力・学習状況調査  
教科に関する調査  
解答状況について

中学校国語

A問題

B問題



# 調査結果から明らかになったこと

(平成21年度調査 全国傾向)

話すこと・ 聞くこと	◇ 効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫すること、話の内容から必要な情報を的確に聞き取ることは、相当数の生徒ができています。	〔A②二〕 〔A④一〕
書くこと	◇ 詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くことは、相当数の生徒ができています。	〔B③三〕
	◆ 主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書くことに課題がある。  ◆ 資料に表れている工夫を自分の表現に役立てること、文章から読み取った情報を簡潔にまとめて書くことに課題がある。	〔A①一〕  〔B①三ア〕 〔B②二〕
読むこと	◇ 文学的な文章の内容を展開に即してとらえること、目次の特徴や役割を理解することは、相当数の生徒ができています。	〔A③一〕 〔A⑥一〕
	◇ 詩の中の語句に注意し、その効果的な使い方に気付くことは、相当数の生徒ができています。	〔B③一〕
	◆ 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむことに課題がある。  ◆ 説明的な文章と補助資料とのかかわりを理解することに課題がある。	〔A⑦一〕  〔B②三〕
言語事項	◇ 文脈に即して漢字を正しく読むこと、辞書に書かれている情報を適切に読み取ることは、相当数の生徒ができています。	〔A⑧二〕 〔A⑧八〕
	◆ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題がある。	〔A⑧三ア〕

… 相当数の生徒ができています点      … 課題のある点 ( )内の記号は、問題冊子と問題番号

主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書く  
(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 中国 A から)

1 田中さんは、絵の鑑賞文を書き始めています。田中さんが書き始めた文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



「モナ・リザ」  
レオナルド・ダ・ヴィンチ作

これは、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「モナ・リザ」という絵です。この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。

県正答率51.1%(全国49.8%)

一 線部「この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。」は、「この絵の特徴は」と「目が合います」との言葉の関係が不適切です。この文の内容を変えないように、「合います」の部分適切に書き直しなさい。

主語と述語が対応しているかという観点から、自分が書いた文章を推敲することができるかどうかをみる。

(解答例) この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合っています。



推敲するためには、

主述や修飾・被修飾など語句同士の関係、また文や段落相互の関係などについて、整合性を点検させることが必要  
選材や構成の段階でもよりわかりやすい表現になるよう工夫させたりするなど、書くことのそれぞれの過程でも随時立ち止まり、見直しながら書くようにさせること

ペアやグループで読み合うことなども取り入れ、誤りを指摘し合ったり、表現の仕方を学び合ったりして、自分の表現に役立てさせることも効果的である。

文章を推敲する習慣を  
確実に身に付けさせる

# 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 中国 Aから)

7

次のAからCまでの短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

A	秋暮れて今年もさむし午后はやく日かげる庭の白菊の光り	木下利玄
B	水すまし流にむかひさかのぼる汝がいさほひよ微かなれども	斎藤茂吉
C	街灯の光とどかぬ舗道にて落葉あかるく月照りにけり	佐藤佐太郎

(注1) 汝はおまえ。

(注2) 舗道は表面を平らに舗装した道路。

県正答率26.3%(全国28.9%)

一 Aの短歌について、言葉のつながりや意味のまとまりから切れめを付けるとしたらどこになりますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。〔 〽 〕は切れめを表します。

- 1 秋暮れて／今年もさむし午后はやく日かげる庭の白菊の光り
- 2 秋暮れて今年もさむし／午后はやく日かげる庭の白菊の光り
- 3 秋暮れて今年もさむし午后はやく／日かげる庭の白菊の光り
- 4 秋暮れて今年もさむし午后はやく日かげる庭の／白菊の光り

短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむことができるかどうかをみる。

短歌を読むためには、



言葉のつながりや意味のまとまりなどの点から句の切れめについて考えてみることで、作品の基本的な構造をとらえることが可能となる。句の切れめをとらえることで作品の基本的な構造を把握でき、作者の感動のありようなどについても考えを深めることができる。作者が対面している事実、状況をまず正確にとらえることが、作者の気づきや感動などについて考えていく上で有効である。

時間のとらえ方の違い、叙景・叙情の違いで分ける

## 適切な語句の選択・歴史的仮名遣い

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 中国 Aから)

三 ア 急いでいるときは、靴をはくのも 1 おこがましい 2 いちじるしい 3 もどかしい 4 はなはだしい。

五 次は、兼好法師けんこうほふしが書いた「徒然草」の「冒頭の部分」とその「現代語訳」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

### 【冒頭の部分】

つれづれなるままに、日暮らし、硯すずりにむかひて、心にうつりゆくよしなしことを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

### 【現代語訳】

何もすることがないままに、一日中、硯に向かつて、心に次々と浮かんでは消えていくとりとめのないことを、ただなんとなく書き付けていると、不思議と妙な感じがしてくることであるよ。

1 線部「むかひて」を現代仮名づかに直し、すべてひらがなで書きなさい。

言語や言語文化に関する知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いることができるかどうかをみる。

県正答率70.9%  
(全国75.9%)

全国との差 - 5%

古典を指導するためには、



古文特有のリズムに慣れさせる。また文章の特徴に目を向けさせたり、おおよその内容をとらえさせたりすることが必要である。

古文を音読、朗読、暗唱することや、古文と現代語訳を対応させて、文章の内容を大まかにとらえることなどを指導することが大切である。

歴史的仮名遣いは古文の学習  
においては確実に理解させる

県正答率46.9%  
(全国49.3%)



# 情報を整理する

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 中国Bから)

2 堀川さんは、「発光ダイオード」について調べることになりました。次の文章〔A〕は、堀川さんが読んだ本の一部です〔1〕から〔6〕は、段落の番号を表します。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔A〕

〔1〕最近、新しい信号機が増えてきたことに気付いているだろうか。これまでの信号機と違い、新しい信号機には小さな粒のようなものがたくさん付いている(写真参照)。この小さな粒は、発光ダイオードというもので、省エネルギーという点などから、近年様々な分野で使われるようになってきた。発光ダイオードは「ろうそくやランプなどの炎」、「白熱電球」、「蛍光灯」に続く、次世代の明かりとして注目されている。この発光ダイオードの特徴について詳しく見てみよう。

〔2〕まずは、**消費電力が少ない**ということが挙げられる。発光ダイオードと白熱電球を比較して考えてみよう。白熱電球は、フィラメントに電流を流して光を発生させている。一方、発光ダイオードは、半導体に電流を流して光を発生させる。その際、どちらも熱が発生するのだが、白熱電球に比べて発光ダイオードの方が、発生する熱が少なくて済み、白熱電球よりも効率的に、電気エネルギーを光に変えることができるのだ。

〔3〕次に、**小さい**ということが挙げられる。信号機の写真からも分かるように、発光ダイオードの一つ一つの大きさは、従来の白熱電球に比べてはるかに小さい。この小さいという特徴を生かして、携帯電話の着信ランプや携帯型ゲーム機の光源(バックライト)などに発光ダイオードが多く使われている。

〔4〕これまでの電球式信号機では、およそ一年に一回電球を交換する必要があった。しかし、発光ダイオード式信号機の場合は、六年から八年に一回で済むと言われている。このように発光ダイオードには、**寿命が長い**という特徴もある。

〔5〕最後に発光ダイオードには、**カラー発光する(特定の色の光を出す)**という特徴がある。朝や夕方などに太陽の光が当たって、信号機が三色とも光って見えるという経験をしたことはないだろうか。**これを疑似点灯現象(点灯していないのに点灯しているように見える現象)**といい、これまでの電球式信号機に多く見られる現象であった。白熱電球は白色光のため、赤や黄色などの色のついたレンズをかぶせている。さらに反射鏡を利用することで、白熱電球の光を一方方向に集め、信号機として使用している。こ

信号機に太陽の光が当たり反射すると、疑似点灯現象が起こる。一方、発

光ダイオードは、カラー発光するので、色のついたレンズを使う必要はない。だから、点灯していない色までもついているように見えることは避けられる。このことにより、発光ダイオード式信号機は、交通安全に役立つという効果が期待されている。

〔6〕電車やバスの行き先表示板をはじめ、町の中や競技場のディスプレイなどにも広く使われるようになってきた発光ダイオード。克服しなければならない課題もあるが、今後ますます私たちの身近な存在になっていくだろう。

【発光ダイオード】



\*上の発光ダイオードの全長は約35mm、発光部は約9mm。

【発光ダイオード式信号機】



(注) フィラメント＝電球・真空管などの内部にあって電流を流し、光や熱電子を放出させる金属の細い線。

## 情報を整理する

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 中国Bから)

二 堀川さんは、発光ダイオードの特徴についてノートにまとめることにしました。文章【A】に書かれている発光ダイオードの特徴を、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

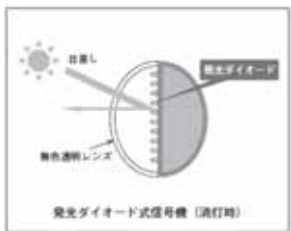
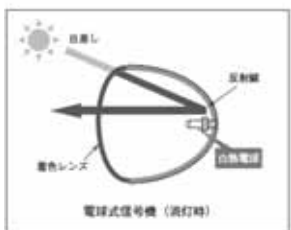
条件1 発光ダイオードが次世代の明かりとして注目されていることが分かる特徴を書くこと。

条件2 簡条書きで三つ以上書くこと。

およそ一〇〇〇〇字の文章を読み抜き、構成を理解することが必要。  
簡条書きで書くことの経験

県正答率64.1%  
(全国66.4%)

三 堀川さんは、文章【A】で説明されている内容でよく分からないことがありました。さらに調べていく中で、次の図【B】を見付け、理解することができました。文章【A】で堀川さんが分からなかったことは何ですか。「くを防げるとはどういうことか。」に続くように、文章【A】の中から抜き出しなさい。



着色レンズか無色透明レンズかの違いを読み取る

文章と補助資料を結びつけて解答を導き出す。

読み取ったことを、言葉でわかりやすく説明する学習を授業で行っていくことが必要。

県正答率62.4%  
(全国64.0%)

説明的な文章とその補助資料を読んで、情報を整理することができるかをみる。

複数の資料を関連付けて読む。

情報を整理するためには、

文章の展開をとらえ、段落の役割を理解することができる。(構成や展開)

文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くことができる。

(事柄や意見) (内容把握や要約)

文章と補助資料との関わりを理解することができる。(情報の活用)

各教科等での言語活動の充実を図る。

学習指導要領国語における「C 読むこと」には、読書と情報活用に関する指導事項があり、情報を活用して読書をするものについて、第一学年では、目的に応じて必要な情報を読み取ること、第二学年では、情報を基に自分の考えをまとめること、第三学年ではこれらを総合して、目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、考えを深めたりすることを示している。

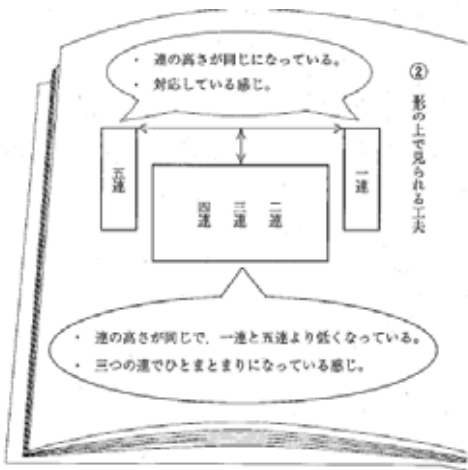
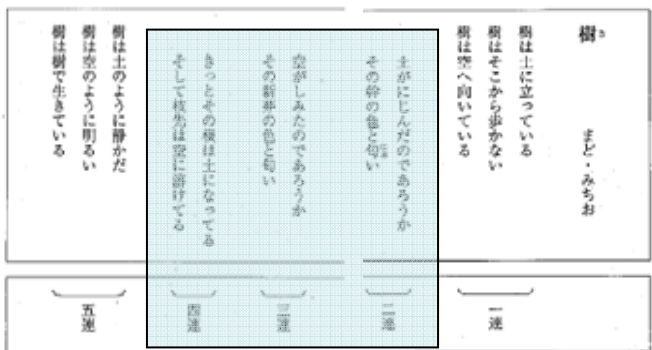
文章や図などの複数の資料を基にして、必要な情報を得ることは、国語科だけでなく各教科等でも言語活動の充実として大切である。

# 詩の表現の仕方に注意して内容をとらえる

(平成二十一年度 全国学力・学習状況調査 中国Bから)

二 平野さんは、「アト」の②のように、形の上で見られる工夫を図に表しました。ひとまとまりのものとしてとらえた二連・三連・四連の内容の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 樹の一部分である「幹」「新芽」「根」「枝先」に着目し、樹が「空」や「土」と一体になっていることを想像を広げて描いている。
- 2 樹の「根」が「土」に埋もれてしまった様子や、樹の「枝先」が雲に隠れてしまった様子について、具体的に述べている。
- 3 樹の「幹」「新芽」「根」「枝先」について細部まで詳しく観察し、それをもとに、樹の様子についてありのままに描いている。
- 4 樹の「幹」や「新芽」の様子と、「土」や「空」の様子の違いを明らかにし、「土」や「空」についての疑問を率直に述べている。



県正答率 64.6%  
(全国65.7%)

## 気づきを大切にし、それを整理するためには

詩の様々な工夫について、気付いたことを生かしながら、繰り返し出てくる言葉に着目してそれらを手がかりに展開を追ってみたり、文字の配置に着目して内容面との関わりを考えてみたりするなど、多角的に詩を検討していくことが大切です。

様々な気づきを観点ごとに大別して整理する学習活動が有効

学習指導要領国語における「B 書くこと」には、記述に関する指導事項があり、伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことや論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことをあげている。

文学的な文章を読んで、その内容、構成、表現上の特徴などを踏まえた上で、写真・絵画・音楽などの性質の異なる作品と比較したり関連付けたりする学習、またその考えを第三者に伝わるように根拠をあげながら説明する学習は、作品への理解を深めるとともに、思考力、判断力、表現力を一体的に育成するものである。今後はさらに、音楽や美術の「鑑賞」の指導事項と関連付けることも望まれる。